

浜中町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）に対する

パブリックコメント結果

募集期間	令和5年4月28日～5月27日
資料の閲覧場所	町ホームページ、役場本庁、茶内・浜中支所
提出方法	持参、郵便等、ファックス、電子メール
意見提出件数	1件（1人）

意見等	町の考え方
<p>浜中町地球温暖化対策実行計画を読みました。浜中町ゼロカーボンシティ宣言を表明してどのように取り組んでいくかを分かりやすくまとめられていて、いち町民として自分にできることは何か、とワクワクしながら目を通しました。ゼロカーボンで「つながるまち」はまなかというキーワードが、とても素敵だなと思いました。</p> <p>エコのために酪農の中でできる活動は何なのか、可能性を探りたいことがあり、この地球温暖化対策計画とも関りがあるのではないかと思われることがあります。何かの機会に、その可能性の是非や正しい手段などを専門の方からご指導いただけたらと思っています。</p> <p>○「新たな」???</p> <p>エコを付加価値とした新たな特産品の開発が取り組みの一つにありました。「新たな」に、私は？が付きました。都会から移住してきた私にとっては、放牧酪農で搾られた牛乳、お天気と相談しながら天日に干して手間暇かけて作った昆布、これらが、十分にエコな特産品ではないかと感じています。</p> <p>舎飼いで、草地面積も限られたら、冷暖房や換気、えさの輸送、肥料の輸送、たくさんのエネルギーを使わざるを得ません。放牧酪農自体がエコな酪農、と考えるのは私の思い込みでしょうか？</p> <p>そのため、タカナシ北海道工場で作られている乳製品は、「新たな」ではなく「何十年も変わらない努力を続けている酪農家さんたちによる」エコな製品という感覚です。『新たな』というキーワードで言えば、昨年発売が開始された『放牧牛乳』がその付加価値の一つとして、エコな商品であると受け止めてもらえるといいなあと思っています。</p> <p>○エコツアー</p> <p>前記のように、放牧酪農自体がエコな活動と認めてもらうために、エコツアーの活動場所を『湿原センター』周辺に留めず、放牧酪農にボランティア作業にはいってもらえたらなと思いました。都会暮らしだった頃の私たちには、魅力だったアウトドアのボランティア活動が放牧酪農牧場にはたくさんあると思います。</p> <p>私がエコツアーに参加するとしたら面白そうだなと思う場所が他にあります。それは、茶内湿原です。茶内スケートリンクで授業が行われなくなり、茶内スケートスポーツ少年団が無くなって数年経ちますが、ほとんど茶内スケートリンクに行くことが無くなってしまいました。</p> <p>町中に、あのような自然に囲まれてこんこんと水が湧いてゆったり流れる場所、ホタルがいる場所があるのは、とても魅力的なのに、行く機会が限られていて勿体ないです。あのスケートリンクの周りで、みんなが憩えたり、お散歩できるように、整備する、そんなボランティア活動に参加できたら、子供たちの土日の居場所にも困らないし、長期休み中もお友達に会えるし、お休みに車を飛ばして釧路や中標津に行く回数を減らしたら、それもエコなのでは？と思いました。</p>	<p>○現在の酪農や漁業につきましては、エコの側面があることは町としても認識しております。計画（案）で「新たな特産品」と記載いたしましたのは、今あるエコ牛乳等は持続したまま、例に挙げられた「放牧牛乳」のような開発について今後も促進していくものでございます。</p> <p>○エコツアーにつきましては、現在町として行っているものではなく、事業者が実施しているものとなります。計画（案）では「霧多布湿原を中心としたエコツーリズム」としてありますが、町でエコツアー等を計画することがございましたら、今回ご意見いただきました酪農や茶内スケートリンク周辺の整備について、企画の参考とさせていただきます。</p> <p>町内の活動場所を増やし、町外への車移動を減らす観点につきましても、今後の事業の参考とさせていただきます。</p>

○小水力発電・・・非常時の牛の飲み水

小水力発電が出てきました。2018年のブラックアウトの時、水は来ていました。

今後、もし、水も止まるような災害が来た時にどうしよう？と考え、備えなくてはいけないのですが、まだ準備できていません。ポンプで川から水をくみ上げて牛に飲ませる、と実案を聞きはしましたが、発電機を牛舎の電力の為に回して搾乳して、という作業もしながら、水槽タンクを取水地に運び、くみ上げポンプを回し、電源はどこから・・・今すぐにも、取り組まなきゃいけないことですが、経験なく、また余裕なく取り組めない中で、こんなことはできないだろうか！と考えていることがあります。

水車です。放牧地に流れる川に水車をかけておいて（マイクロ水力発電装置）、いつでもスイッチか栓の切り替え一つで水を汲みだせるように備えておけないものか？と妄想を抱いています。でも、ネットで調べたら、マイクロ水力発電の設置には、水利権の問題があり、複雑そうでした。

当牧場にはふたつの川が流れていて、河川敷は町の土地と聞いています。この河川敷に、マイクロ水力発電と太陽光ソーラーパネルを設置した小さな高床式（雪解け水の氾濫に備えて）モデルエコハウスを建ててもらい、常時は、エコツアー参加者の宿泊場所などに使ってもらい、非常時のみ、水を切り替えて牛用の飲み水にさせてもらえたら・・・、と虫のいい話かと思いますが、いかがでしょう？モデルエコハウスの宿泊者には、満天の星空と、放牧牛の草をはむ姿、草花の間を飛び交う虫の羽の音、たくさんの鳥の声、若紫の朝霞・・・、浜中町ならではのエコライフを満喫してもらえるのでは？と思います。

できることなら、お試し畑も備えておいて、自家製堆肥も使ってもらえるように備えておいて、山バージョンのお試し住宅の感覚で、エコモデルハウスがあったらいいのにな、と思いました。

○エコな町・・・

放牧酪農は私の中ではエコにつながる仕事と捉えていたのですが、浜中町がエコな町？かということ、そういうイメージを持つ情報は移住前には得られませんでした。

第一次産業が、基幹産業である町だから、当然みなさんエコな暮らしをされていると思っていました。

実際は、まだまだ皆さんで取り組めることがあるからこそ、今回のゼロカーボン宣言を表明がなされ、これから頑張るところだと思います。

私は、冬場、仮堆肥置き場から黙々と上がる湯気を見ながら、この熱を何とか何かに有効利用できないものか、と考えています。バイオガスプラントも稼働され始めたそうですが、この数年間、調べたり教えていただいたりして、当牧場の放牧酪農スタイルではバイオマス事業はそぐわないかと考えています。

大きな事業ではなく小さく個人で、この堆肥の熱を利用する方法を教えていただけるといいのですが、、、。

そして、町の人達の生ごみや落ち葉なども集めて、離農した農家さんの土地や重機などを活用していただいて、堆肥にしたり、そのたい肥を使って、町や海の方の方も畑づくりを楽しめる場所を作ったりできたらいいのにな、と思っています。

浜中町のエコの輪につながっていきたいので、今後とも、勉強の機会をいただきたく、よろしく願います。

○水力発電につきましては、町に大規模河川がないことや、河川周辺に電力需要公共施設がないことから、現在は計画しておりません。今後技術革新により小水力発電の効率が上がりましたら、導入の検討を再度行わせていただきます。また、災害時の水のくみ上げについては、現在の揚水発電施設等では、くみ上げに電気を使用することから、災害時の使用が難しく、検討はしておりません。

エコモデルハウスについては、設置の予定はありませんが、計画策定の際の参考とさせていただきます。

○浜中町がエコな町というイメージにつきましては、エコに対しての情報発信を行っておらず、町内・町外ともにエコなイメージを持たれていない状況です。今後につきましては、計画（案）で記載のとおり「ゼロカーボンの取組に関する情報提供の実施」を行っていくことで、エコなイメージ獲得に努めてまいります。

冬場の堆肥から出る熱につきましては、バイオガス発電のみならず、牛の飲み水を温めるために活用する事例などもございます。このような内容についても上記情報提供の中でお伝えできる機会があればと考えております。

また、堆肥につきましては、現在も自治会連合会が幹旋を行っているコンポスター等に対して、町からの補助を行い、個人での生ごみ等からの堆肥の作成を推進しております。大規模での生ごみからの堆肥化については、現在計画しておりませんが、今後のバイオマス事業等において参考とさせていただきます。

※ご意見について、計画に対する意見部分について抜粋して掲載しております。

その他の意見につきましても関係課と共有し今後の政策に生かさせていただきます。